第 2 章「新入生の保護者調査」の結果

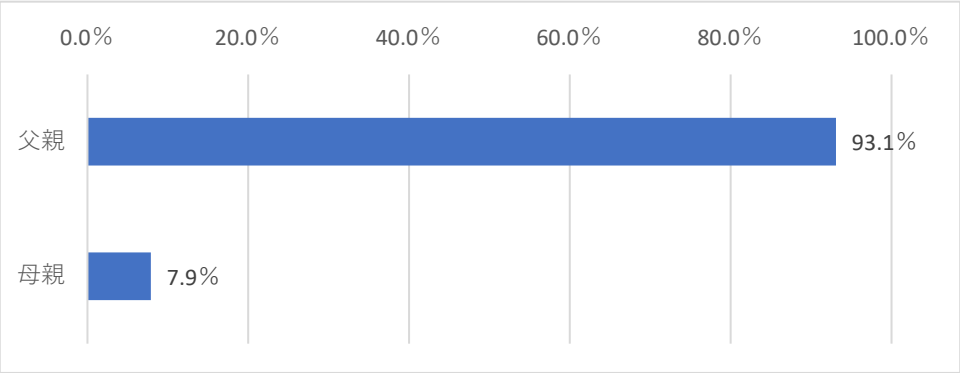
第 2 章では、新入生の保護者 394 名に対する調査結果について報告する。学部別の内訳は、文教育学部 177 名、理学部 105 名、生活科学部 111 名である。

（1）家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者および世帯の年収、④大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

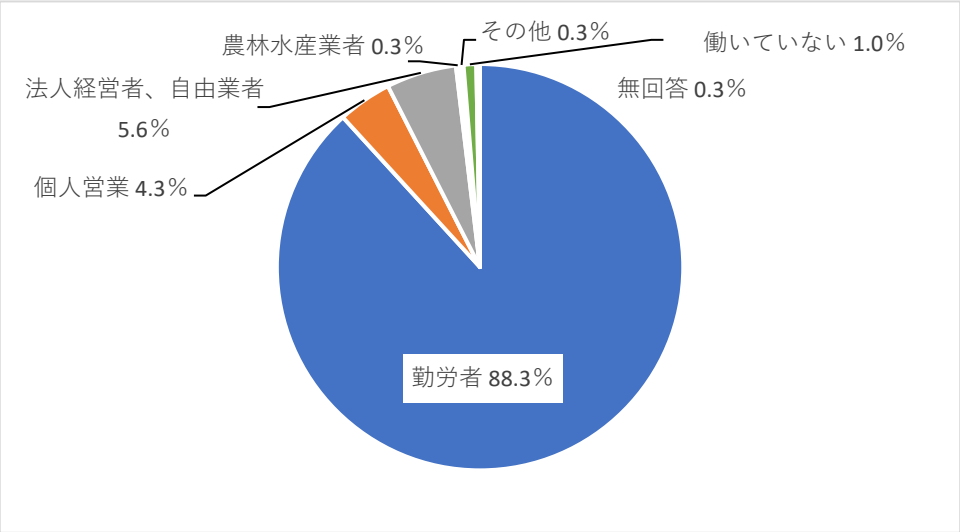
図表 1-1 は、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果である。主な家計支持者は、全体の 93.1%が「父親」、7.9%が「母親」である。複数回答を含むため、父親と母親と両方を回答した場合が含まれている。この傾向は例年と同様である。



図表1-1　家計支持者

② 家計支持者の職業

図表 1-2 に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の 88.3%を占め、次いで「法人経営者・自由業者」5.6%、「個人営業」4.3%である。この傾向は例年と変わらない。

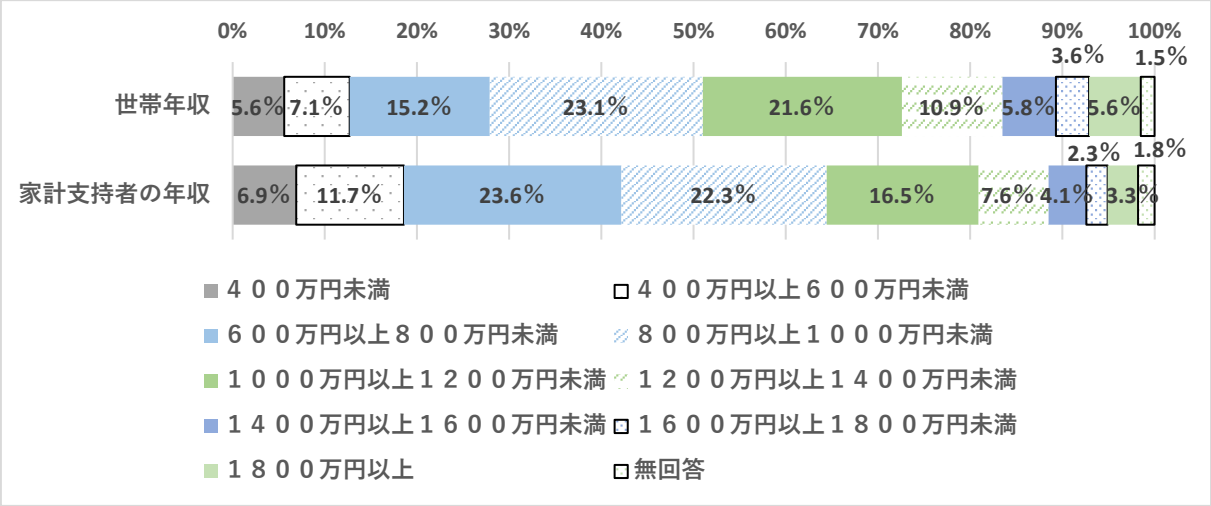


図表1-2　家計支持者の職業

③ 家計支持者および世帯の年収

図表 1-3 に家計支持者および世帯の年収を示す。家計支持者については、「600 万円以上 800 万円未満」23.6%が最大カテゴリーで、次いで「800 万円以上 1000 万円未満」22.3%、「1000 万円以上 1200 万円未満」16.5%と続く。

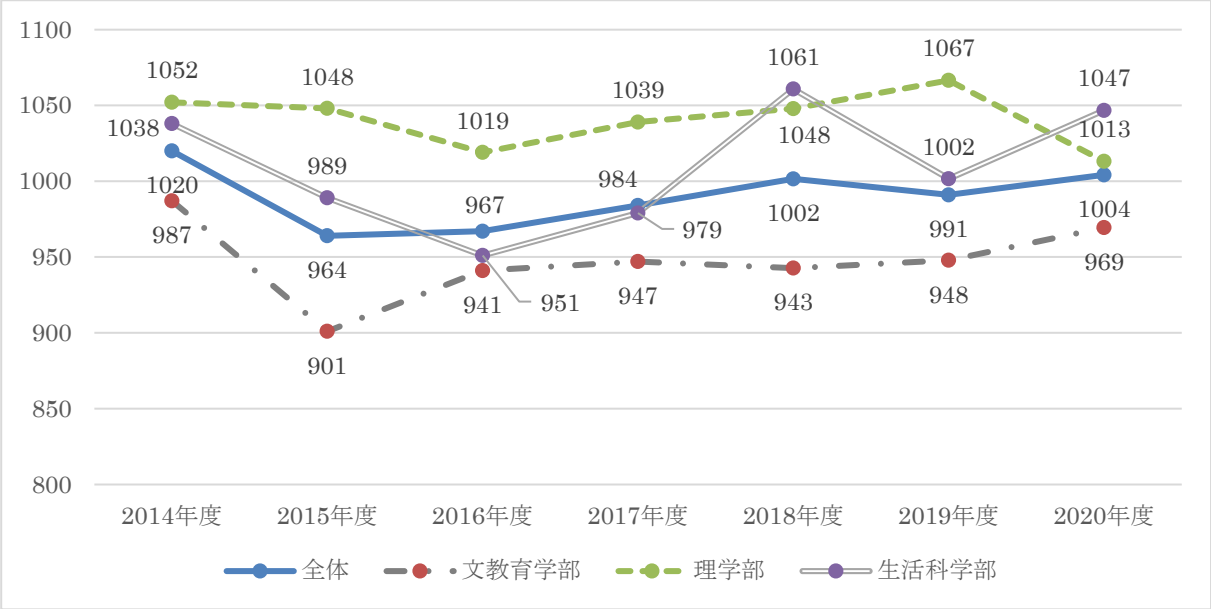
世帯年収については、「800 万円以上 1000 万円未満」23.1%がもっとも多く、「1000 万円以上 1200 万円未満」21.6%が続く。家計維持者・世帯の年収とも、例年と同様の傾向である。



図表 1-3　家計支持者の年収

『平成 30 年度学生生活調査』（日本学生支援機構 2020）によると、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 28.5%、国立大学・女子では 31.1%である。それに対して、本学の新入生の家庭では、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭が全体の 49%を占めており、全国水準に比べて高い方に偏っている。これも例年の新入生と同様の傾向である。

図表 1-4 には、各カテゴリーの中央値に基づき、2014 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示している。年度による差異はあるが、この５年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっている。大学昼間部の家庭の年間平均収入額は 862 万円であることから（日本学生支援機構 2020）、図表 1-3 でも確認したように本学の学生の家庭の収入水準は高いと考えられる。



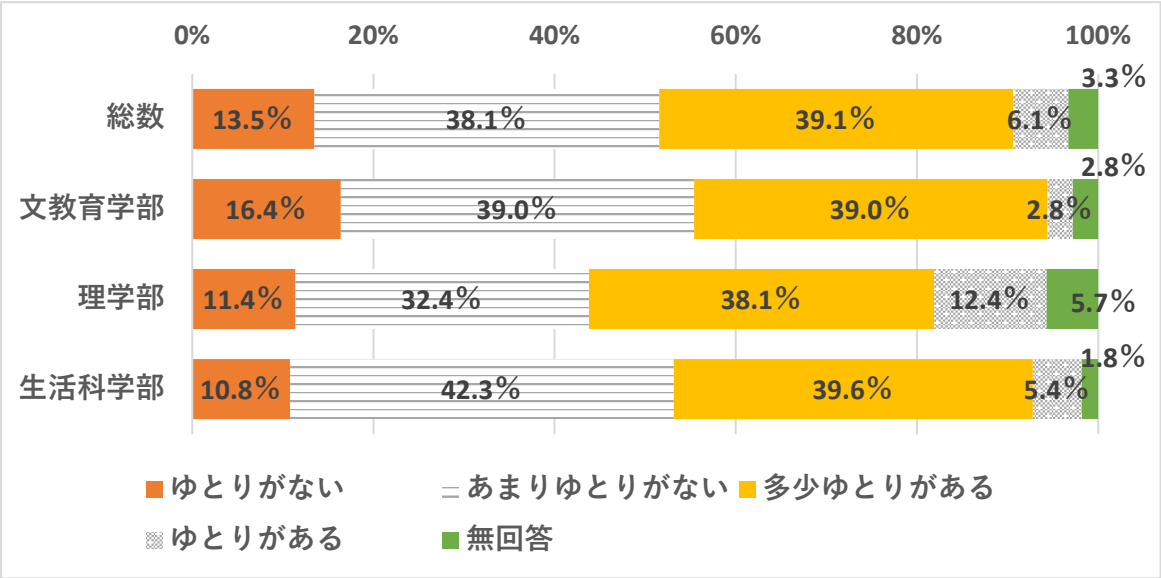
図表 1-4　世帯年収平均（推計）

④ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-5 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体でみると「多少ゆとりがある」が 39.1%と最も高く、平成 31 年度よりも 4.5 ポイントほど高い。ゆとりがある 6.1%を加えると 45.2%の家庭でゆとりがあると回答しており、平成 31 年度にくらべて、ゆとりがあると考える家庭の割合は高い。

学部別では例年と同様に理学部において相対的に「ゆとりがある」と回答する割合が高く、図表 1-4 で示した学部別の世帯年収平均の結果と整合的である。



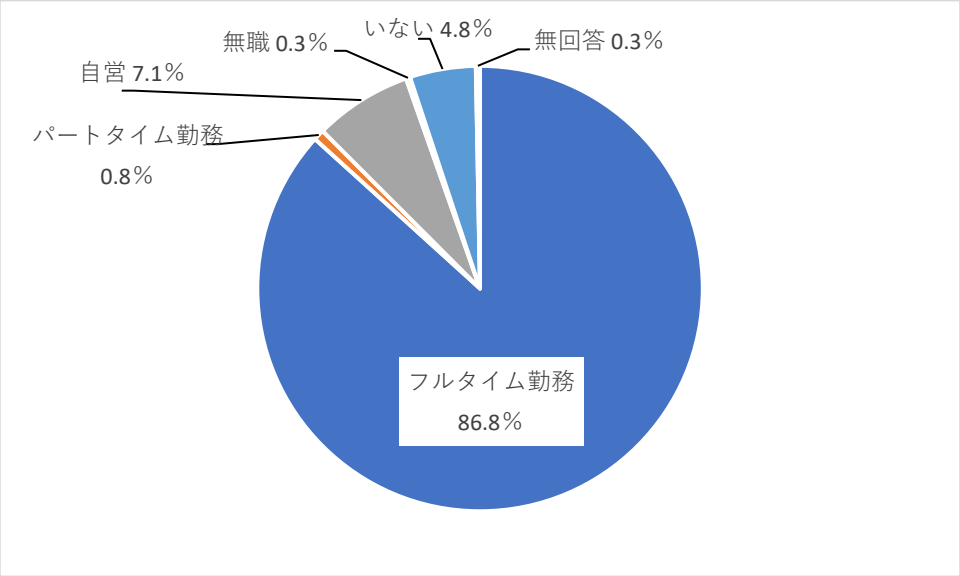
図表 1-5　入学した後の家庭の暮らし向き

（2）親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

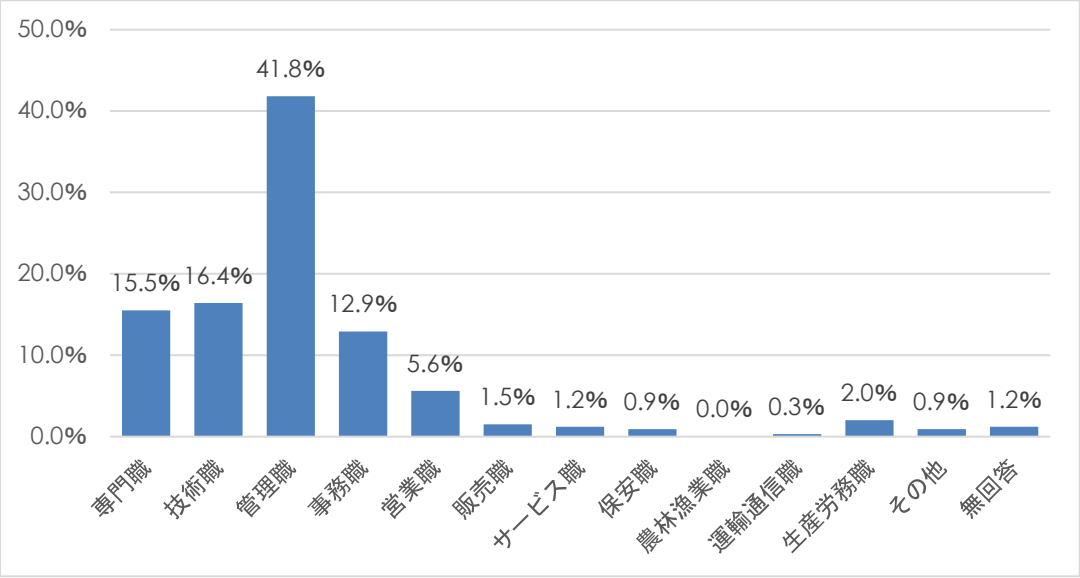
① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」別に尋ねた結果である。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 86.8%と約 9 割を占め、次いで「自営」が 7.1%である。これらの勤務形態の割合は例年と同様である。



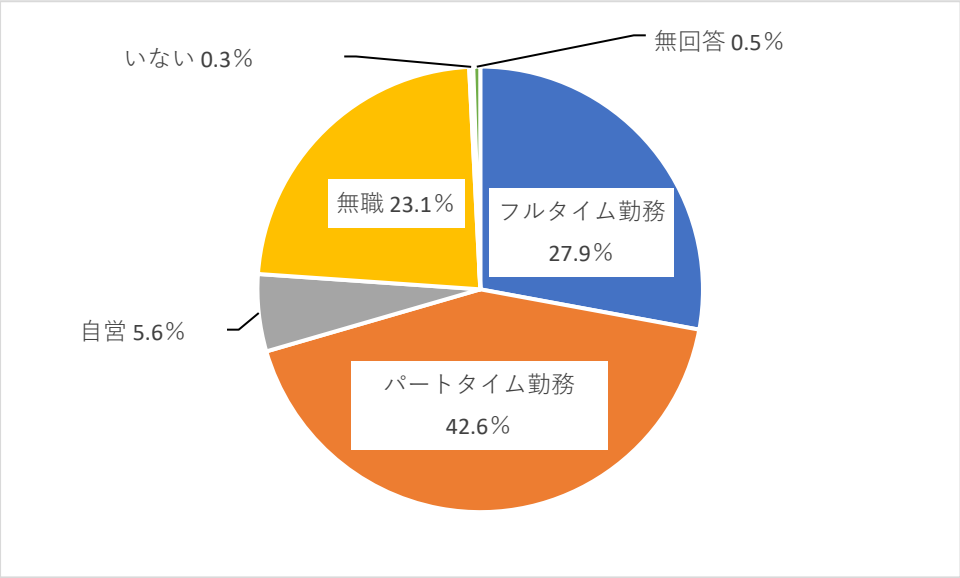
図表 2-1　父親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する父親だけに職種を尋ねた結果を図表 2-2 に示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）41.8%である。次いで、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）16.4%、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）が 15.5%である。例年と類似する結果である。



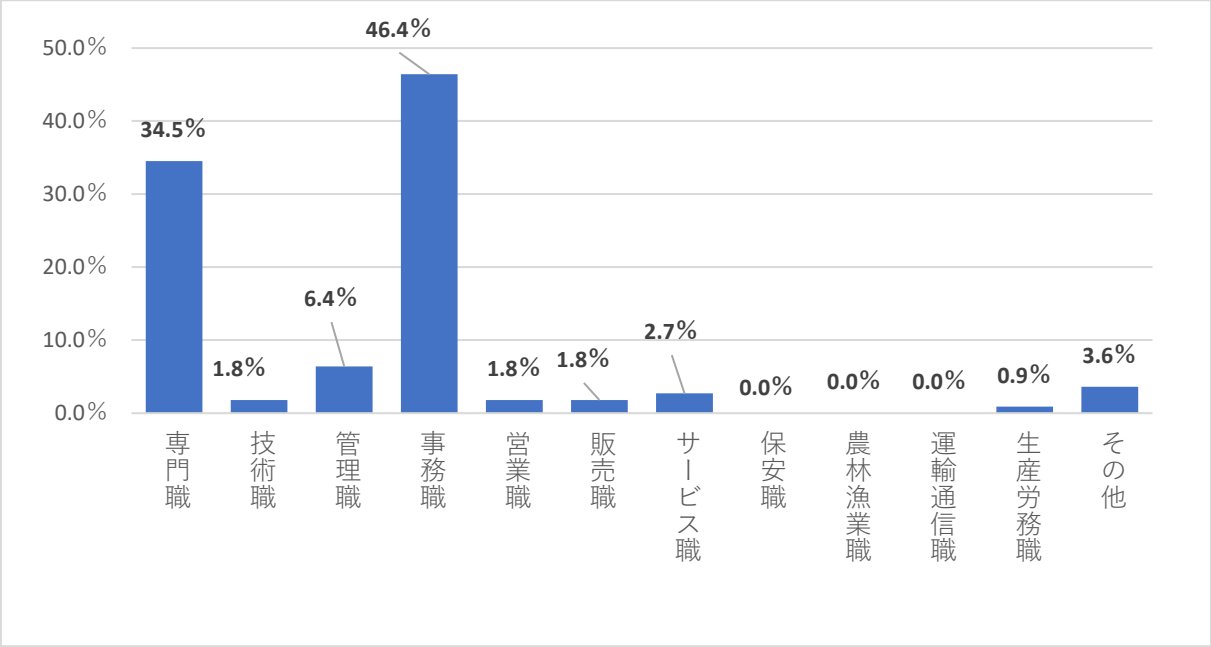
図表 2-2　父親の職種

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。「パートタイム勤務」が全体の 42.6%で最も多く、「フルタイム勤務」27.9%、「無職」23.1%である。令和 2 年度は平成 31 年度にくらべてフルタイム勤務が約 4 ポイント高く、新入生の 7 割超の母親は就業している。



図表 2-3　母親の勤務形態

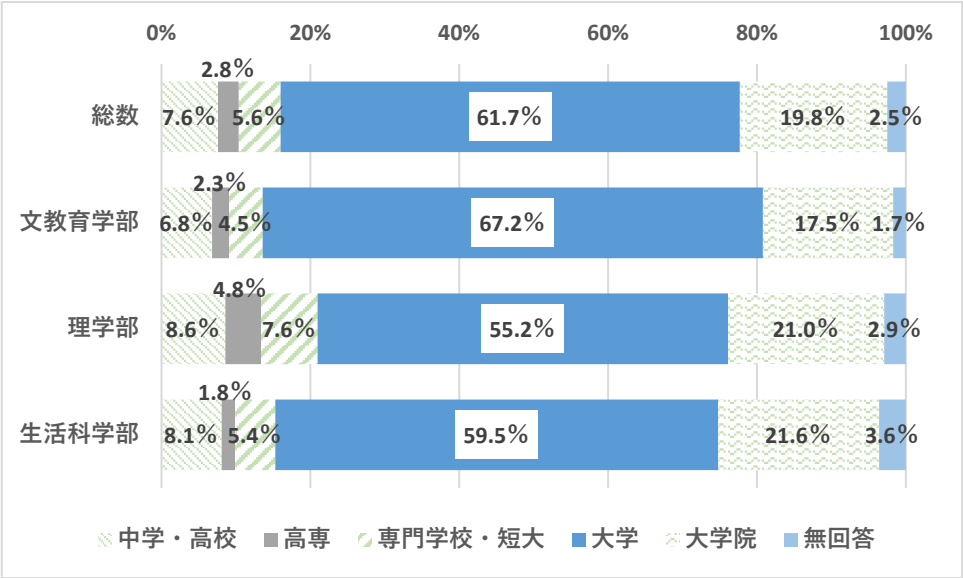
次にフルタイムで勤務する母親だけに職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）46.4%で、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）34.5%が続く。これは平成 31 年度と同様である。管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）は 6.4%で、平成 31 年度よりも 5 ポイント程度高くなっている。



図表 2-4　母親の職種

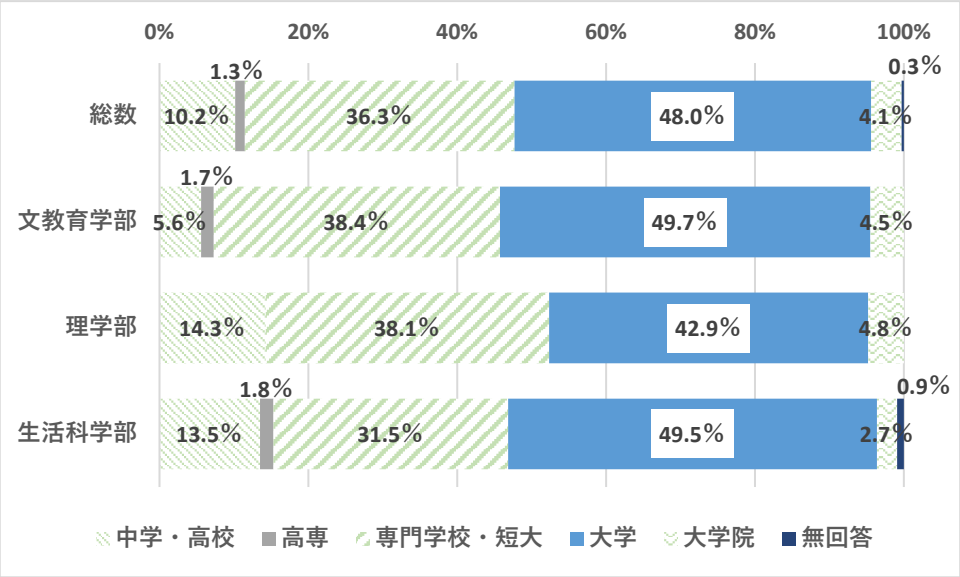
② 親の学歴

図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴を「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に集計した結果である。全体でみると、大学」が 61.7%と最も高く、続いて「大学院」19.8%、「中学・高校」7.6%である。大学卒業以上が 8 割を超えており、令和 2 年度の新入生の父親も例年と同様に学歴がかなり高いほうに偏っている。学部別では、「大学院」の割合が生活科学部・理学部で高い。



図表 2-5　父親の最終学歴

新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-6 である。全体で「大学」48.0%、「専門学校・短大」36.3%、「中学・高校」が 10.2%である。学部別では、文教育学部と生活科学部では「大学」の割合が高く、父親と同様に令和 2 年度新入生の母親の学歴も高い。



図表 2-6　母親の最終学歴

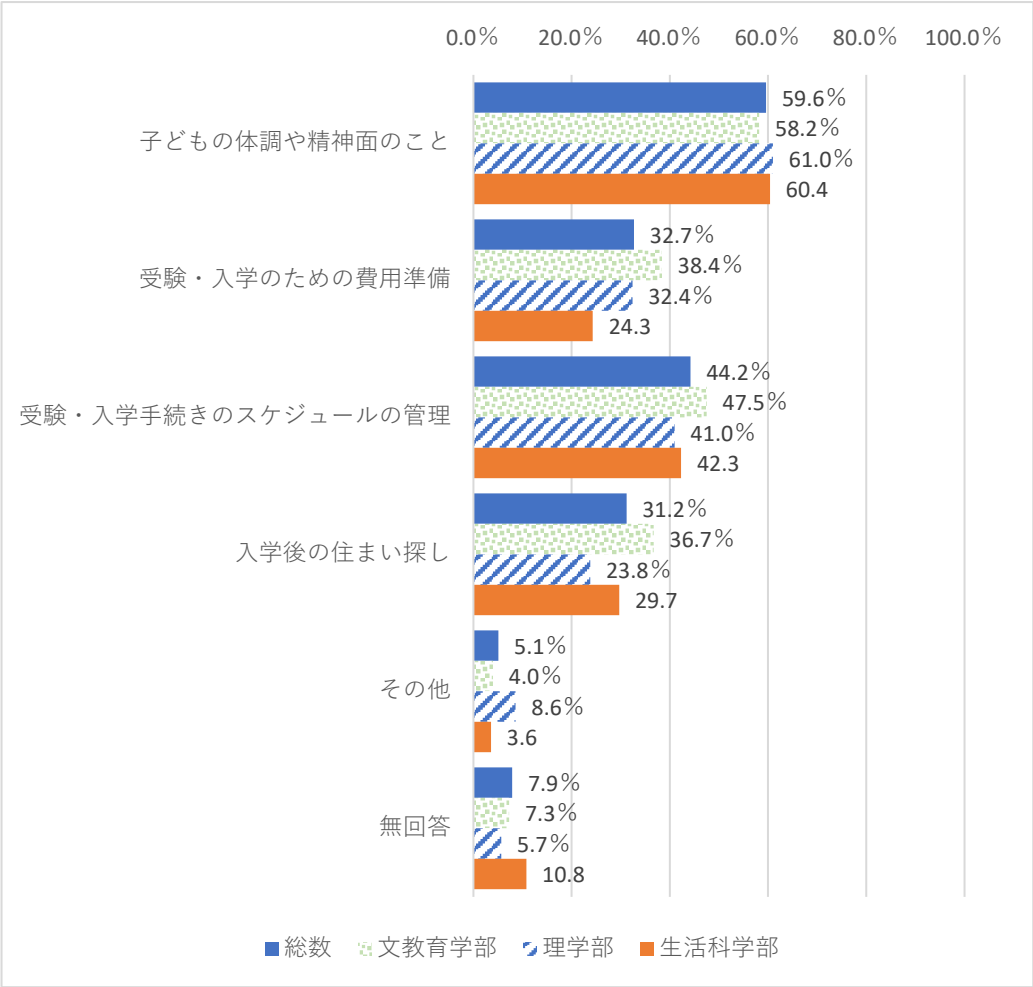
（3）大学生活の不安・心配事・学生支援活動への期待

本節では保護者から見た子女の大学生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

①　受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 は、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

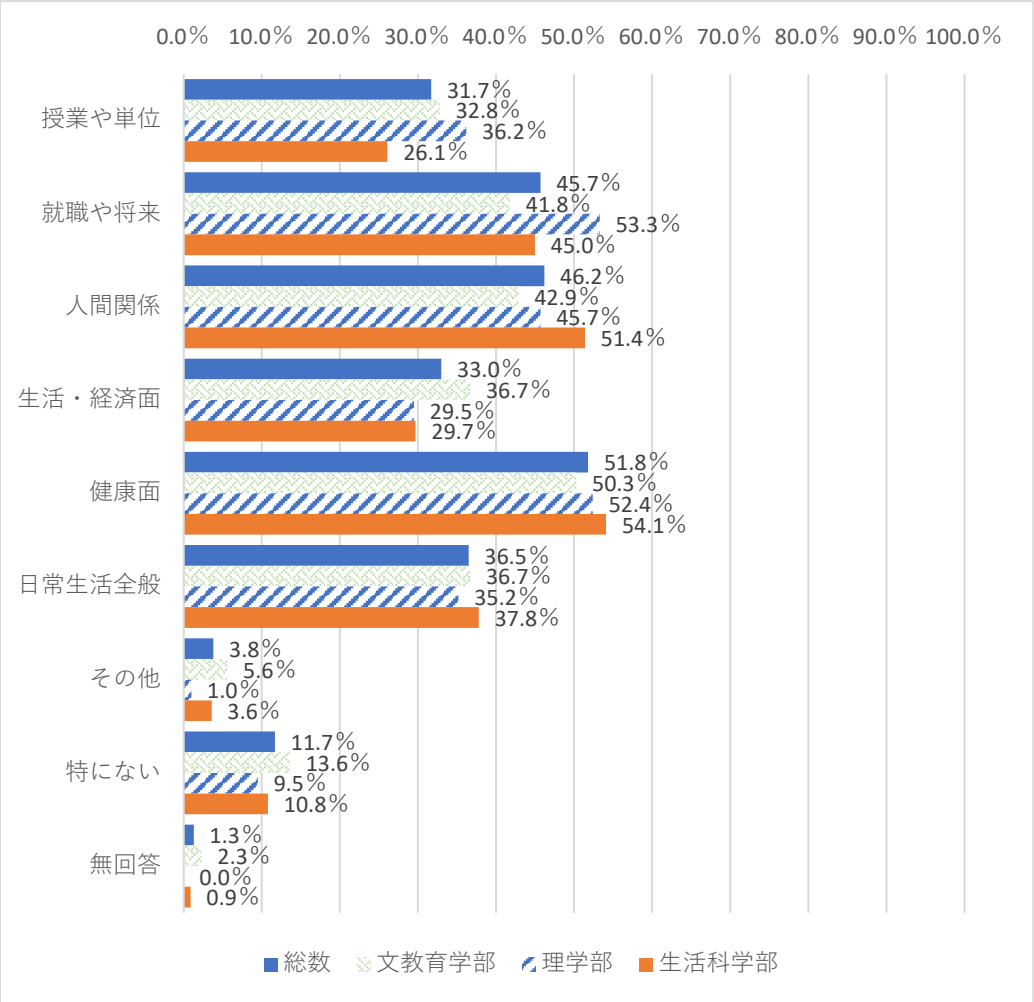
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 59.6%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 44.2%と続いており、例年と同様であるが、平成 31 年度にくらべて割合はそれぞれ 6 ポイント、8 ポイント減少している。学部別では、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」および「入学後の住まい探し」において、文教育学部の回答割合がやや高い傾向が見られた。



図表 3-1　受験から入学までに困ったこと

②　大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 は、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。心配なこととして、全体で「健康」51.3%、「人間関係」46.2%、「就職や将来」45.7%が例年通り高かった。学部別では、理学部で「将来や就職」、生活科学部で「人間関係」が心配と考える割合が高くなっていた。

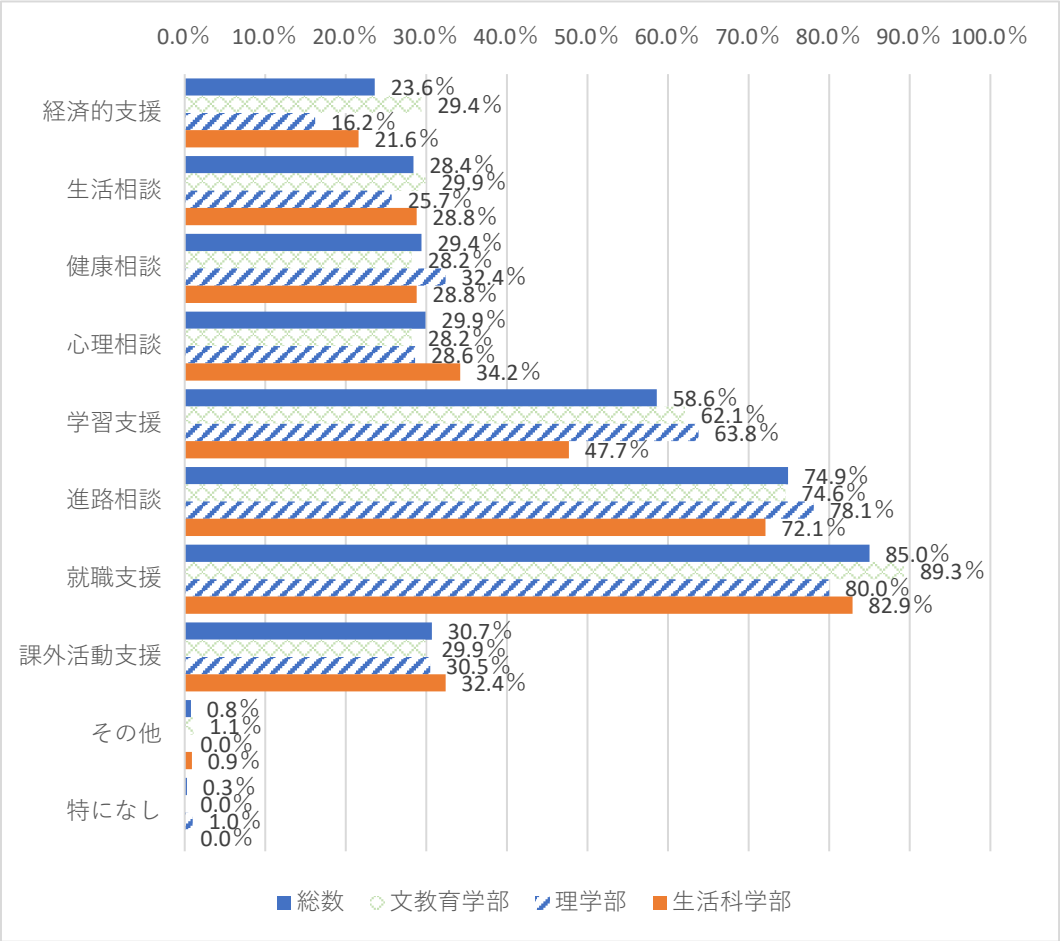


図表 3-2　大学生活が始まって心配なこと

③　本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「就職支援」が全体の 85.0%で最も高く、「進路相談」74.9%と続く。例年同様、保護者が学生支援として、キャリアや進路支援に期待を寄せている様子が見て取れる。学部別では、文教育学部が「就職支援」への期待が高く、理学部は「進路相談」への期待が高かった。



図表 3-3　本学の学生支援活動で期待するもの